

門真市版授業づくりベーシック(第2版)

～単元目標を意識した授業づくり～

すべての子どもたちの可能性を引き出す授業づくりに向けて

門真市教育委員会では、平成31年に「どのような学力をつけるために授業を行うのか」ということについて全教職員で共通認識をもつために、「門真市版授業づくりベーシック」を作成しました。

現在、本市は「令和の日本型学校教育」の推進をめざしています。その理念である「すべての子どもたちの可能性を引き出す」ためには、学習指導要領の内容を確実に身につけ、予測困難な未来に対応できる資質・能力を育むことが重要です。

こうした力を育むためには、子どもたちが生涯にわたって主体的に学び続けられるよう、日々の授業の中で学び方を身につけ、「自立した学習者」となることが大切です。

また、子どもたちが多様な価値観を認め合い、主体的に学び合うためには、教師には知識や技能を教えるだけでなく、一人ひとりの学びに寄り添い、引き出す「学びの伴走者」としての指導や支援が求められます。

さらに、義務教育9年間を見通した学びの系統性を大切に、子どもたちの成長を連続的に支えることも重要です。

このような考えのもと、時代に合わせた授業づくりの基礎・基本として、「授業づくりベーシック」を改訂しました。日々の授業づくりや研究授業等で、ぜひご活用ください。



令和8年4月
門真市教育委員会

「子ども主体」の授業づくりチェックリスト

- ① 学習指導要領に基づき、指導書なども参考にして「単元目標」と「評価規準」を設定している。
- ② 子どもたちの学習状況を踏まえ、単元全体で学習の流れ(導入・展開・まとめ等)を計画している。
- ③ 単元目標に対応した評価場面と方法を計画している。(「指導に生かす評価」「記録に残す評価」を意識)
- ④ 設定した目標や単元計画、評価規準を子どもたちと共有するなど、学習の見通しをもてるようにしている。
- ⑤ 子どもたちが学習方法や表現方法を自ら考える場面を設定している。
- ⑥ 子どもたちが必要に応じて他者と協働して学ぶ場面を設定している。
- ⑦ 単元計画に沿って、子ども一人ひとりの状況に応じた手立てや支援(教師の支援、ICT活用など)を準備している。
- ⑧ 子どもたちが自分の学びを振り返り、次の学びにつなげられるよう工夫している。

【チェックリストの活用・留意点について】

- これらは授業改善における視点です。上記の項目を意識した授業づくりを行うとともに、振り返りのポイントとして活用してください。
- ④～⑧は、単元の内容に加え、子どもたちの状況や学年などに応じて柔軟に設定してください。
- ICTは、調べ学習やデジタルドリルなどでの活用だけでなく、子ども同士の協働や思考を深めるためのツールとしても積極的に活用してください。
- 学校内における研究授業の協議の場で使用するなど、組織の中で効果的に活用してください。

単元計画・学習指導案の参考例



大阪府教育センター(学習指導資料)



<https://www.osaka-c.ed.jp/category/plan/plan.html>

門真市教育委員会(共有ドライブ)
単元計画(略案例)など



<https://drive.google.com/drive/folders/1pjYSqPxSraYZc4vg0amicDf2zG0VxwZ7>

～授業づくりのポイント～ まずは『単元目標 × 単元計画』で授業をつくる!!

単元目標を意識した
授業づくり

子どもの実態

単元全体でみる
授業計画

学習環境と人間関係づくり

授業づくりの土台となるのは「安全・安心な学習環境と集団の人間関係」です。また、誰もが学びやすい環境であるユニバーサルデザインの視点も大切です。「授業者の指示はなるべく短く」「適度な学習量・情報量」「何度もチャレンジできる時間をつくる」なども心がけましょう。

学習指導要領には、「この教科等で、いつ、どんな力をつけるのか」が示され、各学年の学びが系統的につくられています。これを踏まえて単元目標や内容を意識した授業を行うことで、すべての子どもに大切な学びを届け、確かな力を育むことができます。

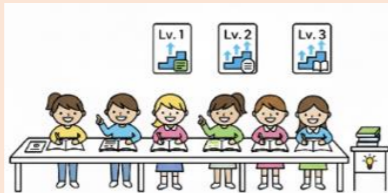
授業づくりのステップ!

- ①単元の位置づけ、指導事項(その単元で何を教えるのか)を確認
- ②学習指導要領の確認(解説で具体的な内容や系統性を確認)
- ③教材研究および児童・生徒の実態把握
- ④単元目標と評価規準の設定
単元目標(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)
評価規準(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)
- ⑤単元計画を作成(①～④のプロセスを踏まえ、単元全体の計画を考える)

単元計画を立てる時のポイント!



「一斉・グループ・1人」の使い分け
教師の話全員で聞く時間だけでなく、友だちと相談したり、1人でじっくり考えたりする時間をバランスよく配置しましょう。



「自分で選べる」場面をつくる
子どもたちが自分のレベルや興味に合わせて「学び方」を選べる工夫をしましょう。

子どもたちが学び方を自ら選択できるよう、学習方略(よりよく学ぶための効果的な学び方・考え方の工夫)を共有することもポイントです!



中教審 教育課程部会
総則・評価特別部会
「個に応じた学習過程の充実について」

子ども一人ひとり、認知特性や学習のペースが異なります。そのような子どもたちが、主体的に学び、課題を見つけて解決する力を身につけるためには、教師主導の授業だけでなく、学び方や課題を自ら選択できる授業設計が重要です。子どもたちが「自分の学び方」を見つけられるよう、授業は単元全体のまとまりで構想していきましょう。

《 単元計画 (略案例) 》

【単元】中学校 第1学年 数学 『平面図形』

【単元目標】

- ・基本的な作図方法や図形の移動について理解することができる。【知識及び技能】
- ・図形の性質等に着目し、作図の方法や図形の関係性について考察し表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・平面図形の性質や関係を数学的な見方で捉えることの便利さに気づき、粘り強く考えようとする態度を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

時間	○ねらい ・学習活動	評価	
		重点	記録
1	○直線、線分、半直線について、定義と用語を理解できるようにする。 ・既習事項の確認を通して、単元の見直しを持つ。	知	○
2	○2直線が平行かどうかを定義にしたがって説明できるようにする。 ・点と直線の距離、2直線の距離について考える。	思	○
3	○2つの図形を重ねる動きを、平行移動、回転移動、対称移動として捉え、説明できるようにする。 ・図形の3つの移動について実際に図形を動かし、話し合う。	思	○
4・5	○図形の3つの移動について、性質を理解し、実際にかいたり説明したりできるようにする。 ・今までの学習内容の理解度を確認。(ミニテスト)	知 思	○
6	○与えられた条件を、たこ形の性質と関連づけて捉え、説明できるようにする。	思 態	○
7・8・9	○線分の垂直二等分線の作図をできるようにする。 ○角の二等分線の作図をできるようにする。 ○垂線の作図をたこ形と関連づけて捉え、作図をできるようにする。 ・教科書の作図の方法や、QRコンテンツを見ながら学習を進める。 ・今までの学習内容の理解度を確認。(ミニテスト)	知	○
10	○学習した作図を適切に組み合わせて、問題を解決できるようにする。 ・宝が隠されている位置について、既習の作図方法を用いて探し出し、自分の言葉でまとめ、説明する。(ノート)	思 態	○
11	○円の弦の性質を理解し、具体的な場面に利用できるようにする。	知	○
12	○円の接線を作図する方法を見いだすことができるようにする。	思	○
13	○単元全体の学習内容について確認し、ふり返ることができるようにする。(ミニテスト・ノート)	知 態	○

一人ひとりの理解度や考えを授業者が把握し、今後の指導に生かしたり(⑦)、子どもが自分自身の学びを意味づけ、次の学びにつなげたりするために、「ふり返り」を行う習慣(⑧)も大切です。

※この単元計画はあくまでも一例です。子どもたちの実態に応じた授業づくりを行いましょう。
※子どもたちにどのような力を付けさせたいのか、また、その具体的な姿を明確にしていけるためにも、単元目標を踏まえた評価規準を設定しましょう。